

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(12月8日～12月14日)

2020年12月17日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- マケイ外務大臣、駐ベラルーシ EU 各国、米国、英国、スイス大使と会談。(12/9)
- ルカシェンコ大統領、ビデオ形式によるユーラシア経済委員会ハイレベル会談に参加。(12/10)
- ゴロフチェンコ首相、2 度に亘り、ミシュスチン露首相と電話会談(12/8, 12/11)

【ルカシェンコ大統領動静】

●ミンスク州ストルブツ地区中央病院を視察

(12/8 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・医療分野において、目的に沿った人材訓練に力を入れている。また、地区間病院の発展にも注力している。ミンスク州では、同種の病院が 4 つある。ミンスク市の研究センターやミンスク州の病院から、多くの手術がこの地区間病院、そして、地区病院に移転されるようにしたい。

・本病院において、新型コロナウイルスの一日あたりの新規感染者数が 11 月時点では約 20 名であったのに対し、現時点では 12 名まで落ちたことは良い兆候である。ベラルーシにおける新型コロナウイルスの状況は複雑であるが、コントロール可能である。

●ベラルーシ国立技術大学創立 100 周年記念式典に出席。

(12/10 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・ベラルーシ国立技術大学は、我が国のエンジニア思考や創造力の祖である。本式典は、本大学を創設した方々だけでなく、自身の仕事により本大学に榮譽をもたらした方々へ敬意を表すものである。

・我々は、国家創設、独立、主権の確立にとって非常に困難で複雑な時代を迎えている。これは、世代交代に関連している。ベラルーシと国民の自由のために戦った世代は去りつつある。世代交代は、いつの時代も、学問であろうが、スポーツの世界であろうが起きている。私は、現世代が、愛国心に富んだ世代

を育て上げることを願っている。

●フレニン国防大臣、ヴォリフォヴィチ国防軍大本営長官と会談

(12/10 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・我々は以前、西側国境及び世界情勢を考慮した地方分隊の近代化について合意したが、これらの文書に関連し何か新しいことはあるか。

・情勢の緊迫化は進んでいる。NATO は、(ベラルーシ国境近くで)訓練しているだけであると正当化している。しかし、我々は軍人である。訓練には、何らかの目的がある。我々の後ろに非常に強い軍隊(当館注:露軍)が控えていても、我々は油断してはならない。

・ロシアにおいても地方分隊の刷新作業が行われている。地方分隊は、西側国境の防御のため連合国家の合意に規定されているものである。そしてこの地方分隊の基礎となるのはベラルーシ軍である。ロシアでは、紛争や軍事行動時にベラルーシやロシアを保護する軍隊や資金が設けられている。

●ビデオ形式によるユーラシア経済委員会ハイレベル会談に参加。

(12/11 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・新型コロナウイルスは、リトマス紙のように経済同盟と統合の本質を暴露し、我々は共に強くなれると確信させた。一方で、この病気は過去合意した協定の不履行の真の価値も示した。

・今年、ベラルーシが議長国であったが、農業、エネルギー、物流の分野において統一された共通の政策に移行するための幾つかの法律が採択された。産業や農業における輸入代替のための施策が主導されたが、ユーラシア経済同盟(EAEU)加盟国は定期的に同合意に違反し、第三国から EAEU 域内への無関税輸入を提案している。また、我々は、第三国における EAEU 製品の販売拡大のための潜在性を活用する必要がある。

・プログラムに記載された全てを履行できたわけではない。幾つかの事項は、実現に1年以上費やした。しかし、提案された方向性に関連する共同の作業は来年も続いていく。EAEU の強化と発展に向けられた議長国としてのベラルーシの課題は、2021 年に議長国となるカザフスタンの考えと多くの部分で一致している。

・EAEU 域外からの攻撃の多くがロシアに向けられている。ベラルーシにおいても強く感じる。ナザルバエフ名誉議長(カザフスタン初代大統領)が仰ったように、ロシアは我々の統合における軸であり、どうか我慢していただきたい。我々はロシアを支援しており、これからも支援していくつもりである。ロシア無しで旧ソ連の統合はあり得ない。

●**シャンドロヴィチ・グロドノ州捜査委員会局長を国家捜査委員会第一副会長に任命。**
(12/11 大統領公式ホームページ)

●**ミンスク市第4病院を視察。**
(12/14 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・新型コロナウイルスの患者以外にも、心臓病、糖尿病、ガンなど様々な病気を持った患者がいる。他の病気の患者に対しても医療サービスを提供しているあなた方は正しい。

・患者が回復に向かっているなら、病院に置きすぎてはいけない。家で治療した方が、患者も快適に感じ、より早く回復するだろう。患者を追い出すというわけではない。統計によれば、0.31%の患者が入院を拒否

されているが、1%にも満たず、良い数字である。ガン患者の病床を、新型コロナウイルス患者の病床に変えてはいけない。

・ロシアの医療研究者によれば、新型コロナウイルスによりガンの予防医療が減り、数年はガン患者が増大するとされている。我々は、この問題に着目すべきである。

・リスク群の方々に急ぎワクチンを打つため、ワクチンを購入する必要がある。しかし、その後はワクチンを製造する必要もあるが、これは販売のためではなく自国民のためである。我が国の研究者の開発が上手くいけば、自国製ワクチンに取り組もう。

(12/14 大統領公式ホームページ)

【外交】

●**ゴロフチェンコ首相、ミシュスチン露首相と電話会談し、統合強化における優先課題について協議。**
(12/8 ベラパン通信)

●**駐ベラルーシ大使(11月30日に着任)、マケイ外務大臣に信任状の写しを送付。**
(12/8 ベラパン通信)

●**スウェーデン団体、学生と教授支援のため、欧州人文大学(当館注:1992年にベラルーシで設立され、2004年に政権の意向により閉校させられた大学。EUの支援の下、リトアニアにて2005年に再度設立された。)緊急基金に対し約10万ユーロの拠出を決定。**
(12/8 ベラパン通信)

●**マケイ外務大臣、駐ベラルーシ EU 各国、米国、英国、スイス大使と会談。**
(12/9 ベラパン通信)

●**マケイ外務大臣、CIS 外相会談に出席。**
(12/10 ベラパン通信)

●**ゴロフチェンコ・ベラルーシ首相、ミシュスチン露首相と電話会談し、連合国家における統合深化の将来**

性について協議。

(12/11 ベラパン通信)

●欧州委員会、ベラルーシ国民に対する支援として2400万ユーロの拠出を決定。

(12/11 ベラパン通信)

●スイス、ルカシェンコ大統領含め政府高官15名に対する資産凍結、入国禁止の制裁導入を決定。

(12/11 ベラパン通信)

【経済】

●2020年11月ベラルーシ新車販売台数、昨年同期対比17%減少。

(12/8 ベラパン通信)

●2020年1月～11月、道路交通料の支払額、昨年同期対比37%減少。

(12/8 ベラパン通信)

●ユーラシア開発銀行、年末までにミンスクエネルギー社に約1億ユーロを拠出予定。

(12/9 ベラパン通信)

●ベラルーシ国内インフレ率、年始対比6.1%

(12/10 ベラパン通信)

●2020年1月～10月、ベラルーシ貿易高、昨年対比、15.9%減少。

(12/10 ベラパン通信)

●ベルガスプロム銀行、経営陣刷新。イリーナ・パタポフ副頭取が頭取代理に任命された。

(12/11 ベラパン通信)

●エネルギー省、数日以内にオストロヴェツ原発第一エネルギーブロックを再稼働させる旨、発表。

(12/11 ベラパン通信)

【内政】

●ミンスク市内及びベラルーシ国内各地で局地的な抗議デモ「国民弾劾の行進」が発生。日曜日としては18週間ぶりにミンスク市内地下鉄及びモバイルインターネットが通常稼働。

(12/13 ベラパン通信)

●12月7日付閣僚会議決定第705号により、12月21日からベラルーシ国民及び外国人の陸路でのベラルーシからの出国が一時的に停止される。

(12/10 ベラパン通信)

●ミンスク市執行委員会内務局、13日の抗議デモには約800名が参加し、300名以上を拘束したと発表。

(12/14 ベラパン通信)

【抗議勢力側の動き】

●チハノフスカヤ元候補、駐リトアニア・イスラエル大使と会談。

イスラエル大使は、ゴールドマン駐ベラルーシ大使によるルカシェンコ大統領への信任状捧呈は現政権支持を意味せず、ベラルーシ国内のユダヤ人共同体支援のために実施されたとチハノフスカヤ元候補に対し説明した。

(12/10 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ元大統領候補がヴァレリー・コヴァレフスキー(世銀本部勤務、外務省職員として在米ベラルーシ大使館勤務歴あり)を国際問題代表(注:外務大臣に相当)に任命。

(12/10 ベラパン通信)

●ベラルーシ・ディアスポラ(国外退去したベラルーシ人の共同体)、14カ国においてベラルーシ国民大使館の開設を表明。

(12/10 ベラパン通信)

開設された14カ国は、ブラジル、英国(※スコットランドには総領事館)、ドイツ、アイルランド、スペイン、リトアニア、ポルトガル、スロベニア、ウクライナ、フィン

ランド、フランス、チェコ、スウェーデン、韓国。

●チハノフスカヤ元候補、アレクシエヴィチ移行調整
評議会幹部会メンバーと会談。

(12/13 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ元候補、シュタインマイヤー独大統領
と会談。

(12/14 ベラパン通信)

両者は、自由のための戦いにおける国民のアイデンティティの重要性について協議し、チハノフスカヤ元候補は、言語、歴史、文化と白赤白の旗への関心は、抗議を強化するものであると強調し、ルカシェンコ大統領は遅かれ速かれ退陣するが、退陣をできる限り早めることが重要であると述べた。

(了)